

幼児の 母



昭和十五年

四月

わが子の通園

——幼稚園保護者心得帖——

倉橋 惣三

幼稚園の方では、先生方は一生懸命。少しの手おちもないやうに保育して下さい。そこで、家庭の方では、全く安心してお願いする譯であるが、だからといって、任せつきりでいゝといふ譯はありませんね、厄介坊やを、人さまにお世話願ふのですもの、義理からいつたつて、任せつきりなんていふことは出来ません。が、こゝでいふのは義理づくなんかのことではない。家庭の心得次第で、わが子の幼

稚園教育が、一層よくなるかどうかの、實際問題です。なかには、幼稚園に通はせて置きさへすればいゝと、氣樂に構えてゐる家がありますが、なんといふ無責任のことでせう。又、わが子のために、どんなにか損のことでせう。

先づ第一に大切なことは、家庭が、幼児といつしよに、その幼稚園通ひを樂しんでやることです。全く、幼児は幼稚園

母のこよみ

外へ。外へ。外へ。

春の野は美しく待つてゐます。なにも大した名所でなくていい。麥青く、菜の花黄に、蝶の舞ふ野路を、ぶらり〜と歩くだけでいい。但し、子どもは、ぶらりぶらりなんか歩いてはゐない。聲を立てて走り出す。もうそこは廣い春の野であり、春の河原であり、春の砂濱である。何をして遊ばう。心配することはない。子どもが先きに立つて、いろ〜の遊びをして呉れる。たゞ何も彼も忘れて、子どもになつて遊べばいい。おなかとすく。お辨當は手づくり。おいしい〜。

一日で、子どもの顔が、いゝ色になつて、氣のせい目の色も鮮かになる。子どもを丈夫にするのは、かうさへすればいい。日光と空氣と運動と。即ち戶外。